

令和5年 「全国学力・学習状況調査」 結果より

鎌ヶ谷市立第三中学校 教務部

1 各教科結果の分析

<国語>

県・全国平均よりやや上回っていました。三中生が苦手としている箇所が、漢字の問題と条件付き作文です。押し量っての「推」が書けた生徒が全国・県よりもやや少なかったです。また、条件付き作文では、クリアすべき4つの条件のうち1つだけクリアできずに×となっている生徒が県・全国よりも多くいました。無回答は県・全国よりも少ないので、漢字と題意にそった答え方ができるようになることが課題です。

<数学>

県・全国平均よりやや上回っていました。分野別では、以前は関数と図形を苦手とする生徒が多かったが、本年度はどちらも向上し、県・全国よりも上回っていました。唯一、データの活用が県・全国を下回っており、出題された「箱ひげ図」についての理解が課題となります。

<英語>

「書くこと」は県・全国を上回っていたが、「聞くこと・読むこと」が下回っていました。下回った「聞くこと・読むこと」、そして、正答率の高かった「書くこと」・「話すこと」いずれも、解答はしているが、『正確性』が足りていない生徒が多くいたことが分かりました。今後は、三中生が苦手になっている『正確性』に重点を置いて学習指導に取り組んでいきます。

6年前から三中で取組始めた「教えて（O）、考えさせる（K）授業（J）」の授業改善により、考える力と説明する力が向上してきました。全国学力・学習状況調査でも、記述問題での無回答率が、全国・県と比べても少ないです。以前から課題となっていた、**問題で問われている内容を正確に読み取り、答えるべき事柄を的確に記述する力**も、改善傾向にはありますが、今後もこの力の育成を目指し「教えて考えさせる授業」を進めてまいります。

2 生徒質問紙より

「朝食を食べる」「定時に起床する」など、基本的な生活習慣は良好で、9割もしくは9割近くが肯定的回答となっていました。また、「いじめは悪い」は9割を超え、「人の役に立ちたい」は9割近く、**規範意識が高くルールや決まりを守り落ち着いて学校生活を送る三中生の姿**が伝わってきます。また、昨年度課題として挙げられた、**スマホやゲーム等の時間を減らし家庭学習を充実させること**に関しては、家庭学習の時間が昨年度よりもやや改善してきているものの、県・全国の平均よりはまだ下回っています。スマホやゲーム等の時間に関しては、今回は項目がなかったため、昨年度との比較はできませんが、減らすことへの指導は継続して行っていきます。また、昨年度も書かせていただきましたが、家庭学習は時間が長ければ良いわけではありません。**家庭学習をより質の高いものへと変え、短時間で最大の効果を上げることを**今後も学校で指導してまいります。御家庭でも御協力をお願いします。